



夏見台幼稚園・保育園 ニュースレター 2024.3.25 号

園主の鳥居徹也です。夏見台幼稚園・保育園でのこだわりをニュースレターにまとめます。どうぞご覧ください。※配信停止の方はお手数ですがメールまたはお電話でどうぞ(info@treponte.jp まで)

〒273-0866 船橋市夏見台 2-16-1 夏見台幼稚園
電話:047-429-7231

幼児教育と学校教育との大きな違い「評価の有無」

幼稚園・保育園あるいは学校というものには、それぞれ保育目標、教育目標があります。私は18年前にこの夏見台幼稚園・保育園を立ち上げるとき、初代園長の南部愛子先生（現名誉園長）に「どんな目標がいいでしょうか？」と尋ねました。

そのとき南部先生は即答で、「楽しい！うれしい！やってみたい！」がいいと言われました。私たちは子どもの意欲を育むのだ、と。

一般に教育目標とは、形だけのきれいごとになりやすいと思っています。しかし夏見台幼稚園・保育園のこの教育目標は、深堀すると、さまざまな意味が引き出されます。単なる園の目標にとどまらず、人生の指針になりうるまでと思っています。

その逆を考えてみましょう。

楽しい
うれしくない
でもやらなきゃ...

今の子どもたちは塾通いも低年齢化し、また習い事の数も多いので、もしかしたら「楽しくない、うれしくない、でも…」という子もいることでしょう。

私自身、大学を出てから営業の仕事を7年ほどやっていましたが、つねに数字に追われていたため「楽しくない…」の気持ちでした。数字がよい年もありましたが、今度は逆に「来年はどうなるだろう？」と不安になりました。

この「楽しくない、うれしくない、でもやらなきゃ」の状態がさらに進むとどうなるか？

楽しい
うれしくない
もうやりたくない

こうなると「学習性無力感」です。意欲自体がしぼんでしまいます。不登校の子どもが激増していますが、きっとこんな心理なのではないかと想像します。

ところで、幼児教育と学校教育の大きな違いは次の1点に集約されると私は考えます。

「評価」があるかないか

園では子どもたちが自由にお絵描きをします。「せんせい、かけました！」「よく描けたね！ここに貼ろうか！」。それが学校になると様子が変わります。



児童「先生、描けました」

先生「はい、よくできました(これはBかな…)」

もちろん、こうした評価の世界をくぐって「今度はがんばるぞ！」と前を向くたくましさ

が必要です。しかしあまりに早くから子どもを「評価の世界」に置くことはおすすめできません。

幼児期は空想・妄想をおおいに膨らませることが必要なのです。子どもはファンタジーの世界に生きています。ドイツのシュタイナー幼稚園では「7歳までは夢の中」といっています。おもちゃでたっぷり遊んで、夢の世界で心を大きく広げるのです。

実は私たちの園にはディズニーなどのキャラクターは一切ありません。園を建築するとき、設計会社がトイレにキャラクターデザインを入れようとしたのですが、南部名誉園長が大反対しました。そうした「外」から与えられる明確なキャラクターではなく、子ども自身が自由に発想できるものがない、との考えでした。

それは人形の選択にもみられます。シュタイナー幼稚園で使う「ウォルドルフ人形」を取り入れています。手作りするのでその手間はありますが、注目すべきは顔の表情です。目や口など、本来なら感情を表すべき箇所があいまいに作られています。



これは「子どもたちが想像を膨らませ、自分の気持ちを投影できるようにとの配慮」からそうなっています。ウォルドルフ人形を説明するホームページには

子ども自身が感覚のなかで想像し、ファンタジーの力で「付け足す喜び」が得られるように、そして折々の子どもの気持ちも受け止めることができるように、できるだけ単純な形にします

とあります。うれしい時には人形に「うれしいね！」と語りかけます。悲しい時にはともに慰め合います。子どもはそのときの感情を自由にお人形に投影するのです。

私はコロナ前まで、キャリア教育の講師として全国の中学・高校を回る仕事もしていました。前職の専門学校時代からの仕事の続きでした。

キャリア教育では「働く意味」がメインテーマです。するとその対象が進学校ではなく教育困難校になります。偏差値で輪切りにされ、意欲も元気もない高校生相手に、私は奮闘してきました。

「ああ、今日の講演はうまくいかなかった…」とうなだれて園に戻ります。すると子どもたちが駆け寄ってきます。

**せんせい、どこいったの？
このかばんにはなにがはいってるの？
なんでこんなにおそきたの？**

講演先の高校では、しらけきって笑顔がひとつも見られなかったのに、このギャップは何なのだろう、と私は思いました。そして改めて「意欲」を育む大切さについて痛感するのです。

(終)